

村田静子・大木基子 編

福田英子集

全二卷

妾が過ぎ来し方は蹉跌の上の蹉跌なりき。されど妾は常に戦へり、蹉跌の爲めに曾て一度も怯みし事なし。過去のみといはず、現在のみといはず、妾が血管に血の流るゝ限りは、未来に於ても妾は尚ほ戦はん。
妾が天職は戦にあり、人道の罪悪と戦ふにあり。此天職を自覚すればこそ、回顧の苦悶、苦悶の昔しも懐かしく思ふなれ。
……(妾の半生涯)より



福田英

不二出版

本体価格………
一六、〇〇〇円
十税

自由民権時代・

初期社会主義時代を一貫して

女性の自由・自立のために闘った、

女性解放の先駆者 福田英子の全貌を

あきらかにする初の著作集！

一九九八年二月刊行！

●福田英子(景山英子)は、自由民権運動の時代に、そして後には社会主義者との交流のなかで、女性の経済的自立と自由を掲げ、社会変革を目指した、近代日本のフェミニズム運動の源流に位置する女性である。

●幼いころから學問に親しみ、早くから教師として働いていた英子は、気にそまぬ縁談をその経済的自立をもって拒絶してからは、女性の自由のためには経済的な自立が必要であることを痛感し、生涯を通じて女性の職業教育に努力する。岸田俊子の演説に感銘を受け、女性解放にめざめ、岡山女子懇親会に加わった。

●大阪事件では、やっと集めた資金を「壮士」たちが酒と買春に費やしているのに失望、革命運動側の性差別をも告発する気概も持っていた。

●民権運動が終息し、かつての同志が権力側に収まるなか、英子は社会矛盾のなかで差別を受ける側に立ち、堺利彦との出会いによって社会主義に道を見いだす。

●一九〇七年には女性解放新聞『世界婦人』を発刊。当局の度重なる弾圧にもかかわらず新しい社会を希求する熱意に溢れた紙面を作った。経済的に困窮しながらも晩年は足尾鋳毒に苦しむ谷中村の人々を支援し励ましつづけた。

●私生活においても、大阪事件の直後に三二歳年上の大井憲太郎と結ばれ裏切られるという経験ののち、福田友作と貧しいが対等な結婚生活を築き、友作の死後、『世界婦人』刊行にあたっての同志でもあった石川三四郎との恋愛など、情熱と波瀾に満ちた生涯であった。

●本書は、英子の著作を中心に、新聞記事・裁判記録など資料・書簡を集め、年譜及び評伝・解題を付してまとめたものである。英子の生涯を貫いた女性解放論、社会変革の思想、そしてその人となりを明らかにする著作集として、近代史・女性史研究に提供するものである。

福田英子
年譜
一八六五—一九二七

- 一八六五年・10 景山英子誕生
- 八〇年・ 研習小学校助教となる
- 八二年・ 5 岸田俊子の演説を聴き、7月には岡山女子懇親会の幹事となる
- 八三年・ 女子演説会で「人間平等論」を演説
- 12 母榎子らと女性のための蒸紅学本屋設立
- 八四年・ 8 自由党納涼会に蒸紅学舎の学生と参加、演説したため閉校処分
- 八五年・ 4 富井於菟と運動資金募集に奔走
- 9 東京発大阪へ爆発物を運搬、11月に逮捕(大阪事件)
- 八七年・ 7 京都祇園の芸妓ら英子に差し入れ
- 八九年・ 2 恩赦で出獄
- 九〇年・ 3 大井憲太郎との子を出産
- 九一年・ 8 集会及政社法改正の建白書提出
- 九三年・ 福田友作と結婚(一九〇〇年、友作死亡)
- 一九〇一年・ 9 角苦女子工芸学校開校、11月には日本女子恒産会設立
- 12 隣家に引越してきた堺利彦と知り合う
- 〇六年・ 10 堺為子らと社会主義婦人同志会
- 〇七年・ 1 『世界婦人』創刊
- 2 治安警察法一部改正請願書を提出
- 〇九年・ 7 『世界婦人』第三八号発刊
- 一〇年・ 3 石川三四郎『世界婦人』発行兼編集人として入獄
- 一三年・ 2 『青鞥』に「婦人の問題の解決」を寄稿、そのために『青鞥』は発禁
- 一四年・ 2 呉服物の行商を始める
- 二七年・ 5 死亡



社会主義の同志たちと。中央右が福田英子

推薦

水田珠枝

〈名古屋経済大学教授〉

女性解放の先駆者

自由民権から社会主義へ

●二〇世紀最後の四半世紀、世界的な女性解放の波を受けて、日本でも岸田俊子、西川文子、平塚らいてう、山川菊栄、高群逸枝など先駆者の著作が刊行され、研究されてきた。そして今回、『妾の半生涯』の著者として知られる福田英子の著作、論説、書簡、関係資料がまとめられ、出版された。

●福田英子は、自分の生涯は蹉跎の連続だったがそれにひるまず闘い続けてきたといっている。自由民権運動に参加して大阪事件で逮捕され、女性のための職業学校を設立して経営に苦しみ、生活に追われながら社会主義的新聞『世界婦人』を発行し、弾圧を受けて廃刊におこまれた。明治以来の女性史をみると、自由民権と社会主義による女性解放の高揚期の谷間には、その退潮期があった。民権運動で活躍した岸田俊子は社会主義に接することなく、一九〇一年に他界し、平民社に属した西川文子をはじめそれ以後の世代の女性には、民権運動の経験はなかった。これに対して福田英子は、女性解放の灯をかかげて民権運動から社会主義へとかけぬけた。本書が広く読まれ、福田英子への理解が深まるとともに、日本女性史研究がさらに豊かになることを願っている。

宮地正人

〈東京女子大学文学部教授〉

自立した強烈な精神の一貫性

●歴史には、ものごとをよく見ることが可能にする時期とおかれた立場というものが存在している。福田英子は、そのような条件を与えられた女性だった。今日から見ればそれほど長寿とはいえない六三歳の生涯を、幕末期の一八六五年に開始し、そして金融恐慌が勃発した一九二七年に終えている。この六三三年間は近代天皇制国家の創造と形成、日本資本主義の確立、大陸への帝国主義的進出と矛盾の激化の六三三年間にびつたりと一致する。家父長制的な女性差別が社会のすみずみまで浸みとおつていく日本社会において、彼女は十代の若さで男女同権思想を民権運動の中に貫徹しようとし、その後も生活苦の中で女性の経済的自立、女性の解放、足尾鋳毒反対、そして谷中村復活のために尽力しつづける。抑圧された性の、自立した強烈な精神の一貫性こそが、彼女の原点となった民権思想を女性解放思想に架橋させ、民衆への共感と社会主義への理解を可能としたのである。

●私たちは、行動において一貫した福田英子が、やや不器用に掘りさげていったその闘いの場に立つとき、逆にそれを覆った、彼女の生きた近代日本という時代の全体とその固有の体臭を正しく認識し感得することが出来るだろう。その材料が、福田英子研究の第一人者である村田静子氏と着実な近代女性史研究者の大木基子氏の共編により、集大成されてここに提供される。本書を推薦する理由である。



1908年頃、石川三四郎・赤羽蔵六(左)と

に他の苦悶来り、妾や今実に苦悶の合冊の内にあるなり。されば、此書を著すは、素より此苦悶を忘れんとての業には非ず、吾筆を執るその事も中々苦悶の種たるなり、一字は一字より、一行は一行より、苦悶は弥々勝るのみ。

苦悶は愈々勝るのみ、されど妾強ちに之れを忘れんことを願はず、吾昔し懐かしの想ひは、其一字に一行に苦悶と共に弥増すなり。懐かしや、吾が苦悶の回顧。

願へば女性の身の自から揣らず、年少くして民権自由の声に狂し、行途の蹉跌再三再四、漸く後の半生を家庭に托するを得たりしかど、一家の計未だ成らざるに、身は早く寡となりぬ。人の世のあじきなさ、しみじみと骨にも透るばかりなり。若し妾のために同情の一掬を注がるゝものあらば、其はまた世の不幸なる人ならずばあらじ。

妾が過ぎ来し方は蹉跌の上の蹉跌なりき。されど妾は常に戦へり、蹉跌の爲めに曾て一度も怯みし事なし。過去のみといはず、現在のみといはず、妾が血管に血の流るゝ限りは、未来に於ても妾は尚ほ戦はん。妾が天職は戦にあり、人道の罪惡と戦ふにあり。此天職を自覚すればこそ、回顧の苦悶、苦悶の昔しも懐かしく思ふなれ。

妾の懺悔、懺悔の苦悶之れを愈すの道は、唯々苦悶にあり。妾が天職によりて、世と己れとの罪惡と戦ふにあり。先きに政權の独占を憤ふれる民権自由の叫びに狂せし妾は、今は赤心資本の独占に抗して、不幸なる貧者の救済に傾けるなり。妾が烏滸の譏りを忘れて、敢て半生の経歴を極めて卒直に少しく隠す所なく叙せんとするは、強ちに罪滅ぼしの懺悔に代へんとは非ずして、新たに世と己れとに対して、妾の所謂戦ひを宣言せんが爲めなり。

第一 家庭

一 廣ひもの

妾は八九歳の時、屋敷内にて伶俐なる娘と誉めそやされ、学校の先生達には、活潑なる無邪気なる子と可愛がられ、十二歳の時には、県令学務委員等の臨める試験場にて、特に撰拔せられて十八史略や、日本外史の講義をなし、之れを無上の光榮と喜びつゝ、世に妾ほど伶俐なる者は有るまじなど、心私かに郷党に誇りたりき。

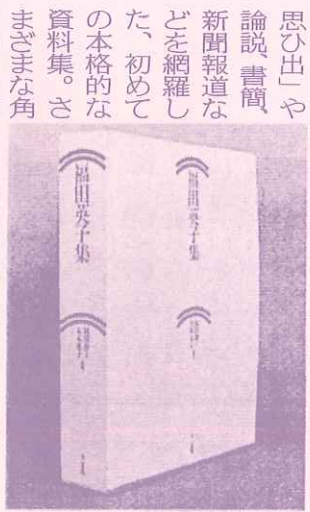
十五歳にして学校の助教諭を托せられ、三円の給料を受けて子弟を訓導するの任に当り、日々勤務の傍ら、復習を名と

日本の女性史に貴重な一冊



福田 英子

岡山市生まれで、明治・大正期に女性解放運動の先駆者となった福田英子(旧姓景山、慶応元年(昭和二年)の著作、資料を集大成した「福田英子集」が刊行された。自叙伝「妾(わらわ)の生涯」、小説「わらはの思ひ出」や論説、書簡、新聞報道などを網羅した、初めての資料集。さまざまな角度から「等身大」の英子像と思想を照らし出している。



基礎的な資料を網羅した「福田英子集」

編者は、昭和三十四年に「福田英子」(岩波新書)を著し、英子研究の第一人者と目される元東京大史料編纂所員の村田静子さんと、高知県立短大教授の大木基子さん。

福田英子は「女たりとて将来は無学で通るべき

「福田英子集」刊行

初資料集 本格的な初資料集 網羅新聞報道や書簡

は思想家というより「実践の人」(大木さん)であり、自分の思想や意識について語ったものをあまり残さなかったからだ。平成六年に岡山県総務学事課文書整備班の保存文書から書簡八通が新たに見つかる成果もあったため、今後の研究に役立つ狙いで資料集が編まれた。

「妾が天職は戦いにあり、人道の罪悪と戦うにあり」「資本の独占に抗して、不幸なる貧者の救済に傾けるなり」と高らかに宣言した自伝。晩年に信頼し合った十一歳年下の石川三四郎への思いを寄せた短歌「若き人よ恋は御身等の専有ならじ五十ぢの恋の深さを知らずや」。このほか、約二百五十通の書簡、「山陽新報」(「山陽新聞」の前身)などの新聞記事を漏れなく収録している。

英子の使命感、自負、孤独の苦しみや時代の状況がまざまざと浮かび上がり、「東洋のジャンヌ・ダルク」といった当時の世評や「女傑」というイメージではとらえきれない素顔もうかがえる。資料集の刊行は目立たない仕事だが、画期的な意義を持つ。英子研究に限らず、日本の女性史、近代思想史を探る上で貴重な一冊といえるだろう。

同書はA5判、六百七十八頁。不二出版(03-3812-4433)刊、一万六〇〇円。

磯山氏よりの急便を受けて、定めて重要事件の打ち合せなるべしと思ひ測れるには似もやらず、痴呆の振舞、目にするだに汚はし、



ア、日頃頼みをかけし人々さへ斯の如し、他の血氣の壮士等が、遊廓通ひの外に余念なきこそ道理なれ、左りとしては歎はしさの極みなるかな。
斯る席に列りては、口利くだに暢づかしきものを、いざ左らば帰るべしとて、思ふまゝに言ひ罵り、やをら量を蹴立て、帰り去りぬ。
……………(妻の生涯)より

●本カタログ中の表示価格は
全て消費税を含んでおりません。
●弊社は注文制です。
お近くの書店にご注文ください。

概要

●体裁
A5判 新組 上製 総六八〇ページ

●全一巻

- 第一章……自伝……………妻の半生涯
- 第二章……小説……………わらはの思ひ出
- 第三章……論説など……………婦人問題の解決／「世界婦人」より／回想・談話ほか
- 第四章……書簡
- 第五章……趣意書類……………蒸紉学会設立ノ趣意書／日本女子恒産会設立趣旨書ほか
- 第六章……資料……………自由民権 大坂事件関係／明治社会主義・谷中村支援関係／訃報・慶弔者一覧
- 評伝……村田静子(元東京大学史料編纂所員)
- 解題……大木基子(高知県立短期大学教授)
- 年譜……福田英子研究文献目録

●本体価格

一六、〇〇〇円＋税



不二出版(株)

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12

電話03-3661-7443

ファクシミリ03-3661-2446

振替00016002640084

1997112

キリトリ線

注文カード 貼合・貴店名	様 冊 数 ご担当	発行 冊	不二出版		注文 日 月 年	注文 名 様 お
		書 名	福田英子集 全一巻			
ISBN4-938303-22-1		格 価 体 本	16,000円＋税			